

科目名	中等教科教育法Ⅰ（国語）			担当教員	濱千代 いづみ	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1JTM201
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	文学的文章・説明的文章の教材研究の基礎的方法を講義する。					
到達目標及びテーマ	中学校・高等学校における国語科教育の目標・内容・方法に関して基礎になる知識を持つ。 中学校・高等学校における国語科教材に対する専門性を深め、指導上の実践力を身につける。 基本的な学習指導案が作成できるようになる。					
授業の概要	国語科教育の目標・内容を、「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を通して正しく把握する。文学的な文章、説明的な文章の教材研究の方法を理解し、教材分析を行い、指導法を実践的な場面を想定して考える。各自の教材分析・指導法について発表し、検討する。また、基本的な学習指導案を作成することで、教材研究の内容を再度考察する。					

授業計画	
第1回	授業の目標、読書
第2回	国語科教育の目標・内容
第3回	授業の構成、実践例の視聴
第4回	基本的な学習指導案の作成方法、評価の方法
第5回	文学的な文章の扱い方
第6回	文学的な文章、教材分析「字のない葉書」
第7回	文学的な文章、指導計画と指導法
第8回	文学的な文章、基本的な学習指導案の作成
第9回	文学的な文章、模擬授業と振り返り、前半部
第10回	文学的な文章、模擬授業と振り返り、後半部
第11回	説明的な文章の扱い方、教材分析「ちょっと立ち止まって」ほか
第12回	説明的な文章、指導計画と指導法
第13回	説明的な文章、基本的な学習指導案の作成
第14回	説明的な文章、模擬授業と振り返り
第15回	まとめ、文学的な文章、説明的な文章の指導法の検討

事前学修	2時間	教材を通読し必要なことを調べておく。発表の方法を考え、発表の準備をする。
事後学修	2時間	授業の内容を整理し、考えたことを記録する。他の人の発表を整理し、自分のものとくらべて気づいたことを記録する。
フィードバックの方法	期日に提出された学習指導案にコメントを付して返す。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない。
レポート	60%	学習指導案、読書案内などの精度を評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40%	模擬授業や漢字かきとりへの取り組みを評価する。
補足事項	なし	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領解説 国語編	文部科学省	東洋館出版社	9784491034706	なし
三訂漢字ハンドブック	近藤政美、濱千代いづみ	和泉書院	9784757609358	なし
配付資料	なし	なし	なし	なし
参考資料	授業時の配付物、「高等学校学習指導要領」文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm 、『新訂 中学校・高等学校 国語科教育研究』全国大学国語教育学会 学芸図書 9784761603670			

科目名	中等教科教育法Ⅱ（国語）			担当教員	濱千代 いづみ	
単位	2単位	講義区分			ナンバリング	ED2JTM202
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	古典の教材研究の基礎的方法と授業作りを講義する。					
到達目標及びテーマ	中学校・高等学校における古典教材を社会背景・文法・用語に基づいて正しく解釈する。古典教材について指導上の実践力をつける。古典の基本的な学習指導案が作成できるようになる。					
授業の概要	古典教材・古典文法・古語に関する基礎知識を確実に定着させるため常に確認する。古典の教材分析を行い、指導法を実践的な場面を想定して考える。各自の教材分析・指導法について発表し、検討する。また、基本的な学習指導案を作成することで、教材研究の内容を再度考察する。					

授業計画	
第1回	学習指導要領の目標・内容、古典作品案内の作成
第2回	古典教材・古典文法・古語に関する基礎知識
第3回	古典の扱い方
第4回	中学校の古典教材「論語」の分析
第5回	中学校の古典教材の授業構想、情報機器（PC・タブレット）による資料提示
第6回	中学校の古典教材の学習の手引き作成
第7回	中学校の古典教材の学習の手引き発表
第8回	授業実践史
第9回	高等学校の古典教材「東下り」「亀山殿の御池に」の分析
第10回	高等学校の古典教材の指導計画
第11回	高等学校の古典教材の授業構想、評価
第12回	学習指導案の作成
第13回	高等学校の古典教材「東下り」第1時・第2時の模擬授業と振り返り
第14回	高等学校の古典教材「東下り」第3時、「亀山殿の御池に」の模擬授業と振り返り
第15回	まとめ、古典の指導法の検討

事前学修	2時間	教材を精読し、語句の意味・文法事項・背景を調べる。
事後学修	2時間	授業の内容を整理し、考えたことを記録する。
フィードバックの方法	期日に提出された学習指導案にコメントを付して返す。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0％	実施しない。
レポート	60％	学習指導案、古典作品案内、学習の手引きなどの精度を評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40％	模擬授業、発表などへの取り組みを評価する。
補足事項	なし	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領解説 国語編	文部科学省	東洋館出版社	9784491034706	なし
配付資料	なし	なし	なし	なし
参考資料	「高等学校学習指導要領」文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm 、高等学校の古典文法書、授業時の配付物			

科目名	中等教科教育法Ⅲ（国語）			担当教員	濱千代 いづみ	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2JTM203
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	学習者の実態を想定した授業構想の方法を講義する。					
到達目標及びテーマ	言葉の特徴や使い方に関する教材についての指導上の実践力をつける。言葉の特徴や使い方に関する教材についての基本的な学習指導案が作成できるようになる。自らの国語力を向上し、的確な言い回しを選べるようになる。					
授業の概要	文法・語彙・表記・位相など、言葉の特徴や使い方に関する教材を分析するときに、学習者の理解を促すためと、自己の国語力を向上させるために、教材以外から多くの事例を集めて整理する。それらの事例を授業を構想するときに活用し、実践的な場面を想定して指導法を考える。各自の教材分析・指導法について発表し、検討する。また、基本的な学習指導案を作成することで、教材研究の内容を再度考察する。					

授業計画	
第1回	学習指導要領の目標・内容
第2回	文法・語彙・表記・位相
第3回	言葉の特徴や使い方に関する教材の扱い方
第4回	文法教材の分析、学習者の理解を促すための文法事例の収集
第5回	文法教材の授業構想、評価
第6回	文法教材の模擬授業
第7回	文法教材の模擬授業の振り返り
第8回	情報からの語彙・位相事例の収集
第9回	収集した語彙・位相事例の分析
第10回	語彙・位相事例を利用した発表
第11回	語彙・位相教材の分析
第12回	語彙・位相教材の学習指導案の作成
第13回	語彙・位相教材の模擬授業
第14回	語彙・位相教材の模擬授業の振り返り
第15回	まとめ、言葉の特徴や使い方に関する教材の、学習者の実態にあわせた指導法の検討

事前学修	2時間	教材を精読し、必要なことを調べておく。発表や模擬授業の方法を考え、発表の準備をする。
事後学修	2時間	授業の内容を振り返り、気づいたことを整理し記録する。
フィードバックの方法	期日に提出された学習指導案にコメントを付して返す。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない。
レポート		60%	学習指導案、事例収集報告などを評価する。
上記以外の試験・平常点評価		40%	模擬授業や発表などへの取り組みを評価する。
補足事項	なし		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領解説 国語編	文部科学省	東洋館出版社	9784491034706	なし
配付資料	なし	なし	なし	なし
参考資料	授業時の配付物、「高等学校学習指導要領」文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm 、『新訂中学校・高等学校国語科教育研究』全国大学国語国文学会 学芸図書 9784761603670、『図説日本語の語彙』沖森卓也ほか 三省堂 9784385364797			

科目名	中等教科教育法Ⅳ（国語）			担当教員	濱千代 いづみ
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED3JTM204
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	単元を見通した指導計画の立て方、教材の授業構想の方法を講義する。				
到達目標及びテーマ	中学校・高等学校における国語科教材について授業を構想し、正式の学習指導案を作成し、模擬授業で実施できるようになる。各自が構想し実施した模擬授業について、他者のものと比較検討し、長短を見分けて改善案が提出できるようになる。				
授業の概要	本授業では実際に指導する場面を想定して、指導過程における諸問題・諸技術を中心に扱い、検討・考察する。学習指導要領の学年の目標に従い、教材の指導目標をたて、正式の学習指導案を作成し、グループの中で発表・検討する。作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実施し、検討ののち改善案を出す。				

授業計画	
第1回	授業を構想すること
第2回	指導過程における諸問題・諸技術、誤答への対応
第3回	指導過程における諸問題・諸技術、板書とノート
第4回	現代文教材の分析
第5回	現代文教材の分析結果に基づく意見交流
第6回	古典教材の分析
第7回	古典教材の分析結果に基づく意見交流
第8回	選択した教材での指導目標、指導の立場
第9回	選択した教材の指導計画
第10回	正式の学習指導案の作成、教具、情報機器（PC・タブレット）による資料提示方法、板書計画
第11回	古典教材の模擬授業
第12回	古典教材の模擬授業に関わる意見交流
第13回	現代文教材の模擬授業
第14回	現代文教材の模擬授業に関わる意見交流
第15回	授業の振り返りとまとめ

事前学修	2時間	教材を精読し、文献・資料を探しておく。発表や模擬授業の方法を考え、発表の準備をする。
事後学修	2時間	授業の内容を振り返り、気づいたことを整理し記録する。
フィードバックの方法	模擬授業の際にコメントを述べる。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0％	実施しない。
レポート	60％	正式の学習指導案を評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40％	教材分析の精度と意見交流への取り組み、模擬授業への取り組みを評価する。
補足事項	なし	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領解説 国語編	文部科学省	東洋館出版社	9784491034706	なし
国語2（中学2年）	甲斐睦朗ほか	光村図書	なし	なし
参考資料	授業時の配付物、「高等学校学習指導要領」文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm			